

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回総合交通計画推進協議会	
開催日時	令和6年3月7日（木）	14時00分から16時00分まで
開催場所	枚方市役所第3分館 第3会議室	
出席者	会長：土井委員 副会長：猪井委員 委員：北川委員、松本委員、定藤委員、山本委員、谷川委員、加藤委員、 佐竹委員、北尾委員、玉置委員、内田委員、中村委員、 藤田係長（裏川委員関係者）、浅岡委員、片島委員、木島委員、 長尾委員、北西委員、追間委員、田村委員	
欠席者	裏川委員、三谷委員、浜田委員、鬼追委員	
案 件 名	（1）現計画の評価指標に基づく施策評価 （2）枚方市総合交通計画の改定について ①将来像 ②現状の整理 ③課題・基本方針・理念 ④骨格体系図	
提出された資料等の名称	資料1：現計画の評価指標に基づく施策評価 資料2：枚方市総合交通計画の改定について 資料3：今後の予定 参考資料1 枚方市総合交通計画改定に関する市民アンケート調査結果について 参考資料2 校区コミュニティアンケート結果について 参考資料3 庁内関係部局、交通事業者等との意見交換	
決 定 事 項	（1）現計画の評価指標に基づく施策評価について、了承された。 （2）次回協議会までに、委員より指摘のあった点を踏まえて、事務局が計画骨子案を作成する。	
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公開	
傍聴者の数	4名	
所管部署（事務局）	土木部 土木政策課	
審 議 内 容		
【開会】 会長：前回の協議会は昨年10月に開催し、市民アンケート調査の実施内容について議論した。その後、12月～1月にかけてアンケート調査を事務局で実施した。		

本日は次第の通り、はじめに案件1として、現行計画の評価指標に基づく施策評価の説明を受けた後、案件2として、市民アンケート結果などを踏まえた計画改定について説明を受け、それぞれ議論を進めていきたい。

それでは、事務局より、本日の委員の方の出席状況と、傍聴人数の確認をお願いします。

事務局：委員24名中20名の出席、計画改定業務受託者の日本工営から2名、傍聴希望者が4名となっている。

会長：本日の会議は特に利害に問題になる、あるいは、個人的な情報を議論する場ではないので、傍聴を認める。傍聴者の入場をお願いします。

本日の議事録は公開していくということでご了解をお願いしたい。

案件1：現計画の評価指標に基づく施策評価

〈総括〉

○以下のとおり確認した

- ・事務局より施策評価結果について報告し、委員の了承を得た。

〈質疑応答〉

委員：資料13ページに記載のある公共交通利用促進啓発イベントの参加者数について、例えば2022年度の単年度の393人のイベントの内訳を教えてください。達成状況について、累計が増えていくので達成という理解で良いか。

委員：資料7ページの評価指標の達成状況の中で、関連ホームページへのアクセス数が達成となっているが、2021年から2022年にかけて3,000件程増加している。どのような取り組みを実施したのか、どのようなホームページの閲覧が多いのか教えてください。

事務局：公共交通利用促進啓発イベントの達成状況は累計で見て、イベントに参加して、公共交通を利用するきっかけを持った人が増えることを目指しているため、累計で評価している。この年は「バスバックヤードツアー」と「バス！のってスタンプラリー」のイベントを実施し、2つの合計値となっている。参加者数の内訳は事務局で確認する。（協議会後確認：スタンプラリー実施（1回、243人参加）バスバックヤードツアー実施（4回、150人参加））

ホームページの閲覧数が2020年に大幅に増加したのは、枚方市のホームページを大幅にリニューアルした年であり、ホームページの内容が充実し見やすくなったので閲覧数が多くなったと考えている。どのページの閲覧が多いかは把握できていない。

委員 : 主な取組事例で説明のあった交通実態の可視化資料の共有が特徴的だったと思う。ここに皆さんの思いが込められた計画だったと認識している。ホームページの閲覧数が伸びたとのことだが、共有化して何か動きを起こしたいということで評価指標に取り入れたものと思われるが、その効果はどのように認識されているか。

委員 : 資料 19 ページに 1 人平均歩数の指標の記載がある。2023 年に平均歩数が 6,671 歩とのことで、2019 年より増加しているが、逆に便利な公共交通機関が無くなったために歩数が増えたとも捉えられかねない。普通のお年寄りでは 6,000 歩も歩けないという実感を持っている。どのようなデータなのか、どのような意味合いを持つ指標なのか教えていただきたい。

事務局 : 少しでも公共交通を知ってもらうために、分かりやすい情報発信が大切と考えている。分かりやすい資料の共有化を目指すためにホームページのアクセス数を指標としている。効果としては、アクセス数が増えたから公共交通の利用者が増えたというような直接的な効果は測れていないところではある。共有化することによって、交通に興味を持っていただいて、外出する方が増えている効果があると思っている。平均歩数の算出方法は、枚方市の健康増進計画の数字を根拠に記載している。算出方法としては、枚方市のウォーキングアプリがあり、1 日 5,000 歩以上歩いた方に少しプレゼントがある。そのアプリをダウンロードした方の平均歩数を算出している。北川委員からの質問への補足となるが、定量的な効果をお示しすることは難しいが、資料 7 ページに記載の、公共交通機関が整っているなど都市機能が充実していると感じている市民の割合が向上しており、本市が取り組む他の施策よりも高い数値になっている。公共交通の情報発信により、市民に取組内容を認識頂いていることが高い数値になっていると理解している。

副会長 : 資料 7 ページの公共交通機関が整っているなど都市機能が充実していると感じている市民の割合は 5 年間で 41.9%から 52.1%となっており、上昇幅が大きい。只今説明のあったように、情報の可視化が要因と考えたことは、アンケート調査結果から読み取れたことか。根拠を明確にしていきたい。他の市町村でも同様の調査を実施していることがあり、満足度が上がらなくて困っていることが多いため、非常に重要な点である。

委員 : 市民アンケートは本市の他の施策とともに調査しており、個人を特定して聴けるものではないため、推測の域を出ない点をご理解いただきたい。事務局の説明の通り、地道な取組みを進めている。他の市町村に比べ、京阪バスや京阪電鉄をはじめとした交通

事業者が非常に頑張っていたいただいていることを、市民の方が認識しており、その結果が数字として出てきていると推測をしている。

委員 : 定量的な評価が難しい中で、資料7ページの外出率が下がっていることや、資料10ページの鉄道利用者やバス利用者が減少していることから、外出したいと思っている人が減少傾向にあるのではないかと思う。交通のことを知ってもらいたいという取組みとギャップがあると思うが、その点の見解を伺いたい。

事務局 : コロナの影響で外出制限が掛かっているので、この2~3年で数字が下がっている項目はあったと思う。コロナ以外にも外出していくための理由として、魅力的な施設などが欠けているということも考えられる。今後の施策検討に当たっては、お出かけを促進する取組みにも目を向けて、計画を改定していきたい。

委員 : 外出していない方のライフスタイルの質問や意識調査は検討されているか。

事務局 : アンケート結果は速報値であり、外出に課題を持っておられる方というカテゴリで、データの内容を確認していきたい。

会長 : 外出が潜在化する人がいる。自分で公共交通に乗れる人もいる一方で、誰かの送迎に頼らないといけない人が遠慮や気兼ねをして外出しない場合、外出の潜在化となる。公共交通のサービス水準を上げることで、外出を顕在化できると考える。

コロナの影響だけでなく、若い人の外出率が減少していることが近畿圏のパーソナルリップ調査ではっきりと分かっている。いくつか理由があると思うが、免許を取得できないことや、非正規の働き方をしていると交通費の負担が大変などの理由があることが考えられる。データをもう少し細かく見ていくと、どのような状況でなぜ減っているのか分かってくることがあると思うので、そうしたものを計画に活かしていくということだと思う。

公共交通が整っているかどうかという点で、設問の並び方や聞き方で数字が振れる質問だと思う。指標のパーセンテージに一喜一憂するのではなく、市民の方に知ってもらう取組みのための目標指標にしていくことが良い。この数字はあくまでも結果とご理解いただきたい。

ホームページのアクセス数はアウトプット指標である。これからホームページをご覧になった方に対して意見を伺うなどフィードバックをしていき、ホームページのアウトプットがどのようなアウトカムになったか、すなわちホームページを見た方が結果としてどのような行動の変容につながったか把握していくことが必要だと思う。

資料の13ページにあるようなイベントについても、毎回の参加者数で評価していくこ

とが良いが、これに加えて、参加者がバスや鉄道を実際に利用する行動変容をされているか把握することが望ましい。イベント主催者との調整の必要もあるが、リピーターの方々を対象に行動変容を確認していくと、施策評価でより深いもの見方ができると思われる。

案件2：枚方市総合交通計画の改定について

〈総括〉

○以下のとおり確認した

- ・事務局より、枚方市総合交通計画の改定に向けて、将来像、現状の整理、課題・基本方針・理念、骨格体系図について説明した。次回協議会までに、委員より指摘のあった点を踏まえて、事務局が計画骨子案を作成することとし、委員の了承を得た。

〈質疑応答〉

委員：資料27ページに記載の通り、高齢者は徒歩が多い。ウォーカブルという概念があるが、徒歩で歩ける程度の生活空間を確保することが高齢者の願いである。まちづくりの観点で、そういった内容をもう少し大きく入れていただくことが良いのではないか。色んなことがいっぱい書いてあり発散しているような感じがする。丁寧に色々な調査をされていると思うが、もう少し絞って高齢者向けにはウォーカブルなまちづくりの取組みなど、分かりやすく考えていただけたらと思う。

また、私は成田山にお参りすることがあり、市の無電柱化計画の進捗状況がどうなっているか気になる。道が狭いので、車で行くと怖い。

委員：障がい者のガイドヘルパーという外出支援サービスの利用時間数を見ている。利用時間を支給決定者数で割ったものとなるが、枚方市の最盛期は2006年で1ヶ月に26時間程度、2020年は1ヶ月で9時間となった。年齢層の外出時間を見ると、2006年に一番外出が多かったのは50～60歳代で、その年代が高齢化したのだろうと思う。

現場でよく聞くのは人手の問題でなり手が少ないことと、電車・バスに乗ると、ノンステップバスやエレベーターもあるが、乗っている人の意識が厳しく、席を譲ってくれないことやエレベーターに乗れないことがある。また、バス停がバリアフリー化されていないなど、設備が弱い点がある。コロナによって行く目的が少なくなったこともある。一度失速すると戻ることが難しい。先日、市民に対する啓発として、発達障害の特性を理解してほしいという趣旨のチラシを配布した際に、障がい者の家族の方から電車でジロジロ見られて電車に乗りにくいという声をきいた。障がい者が外に出たいこうという意識付けをどうしていくか非常に大事と感じている。

事務局 : ウォークアブルのまちづくりについて、枚方市駅周辺の整備を進めている。まずは駅周辺で歩きやすい空間を造ることで、賑わいづくりをしていく。樟葉駅周辺でも整備を進める予定である。市域全域を一足飛びに取り組むのではなく、まずは中心拠点となる枚方市駅、樟葉駅の整備を進めている。

無電柱化計画の進捗状況は、枚方市駅周辺再整備に伴い枚方市駅北口から京都守口線に至る区間の無電柱化を進めている。大阪府において、府道京都守口線の無電柱化を進めているほか、新名神高速道路のアクセス道路となる都市計画道路内里高野道線の整備に伴う無電柱化に取り組んでいる。

委員 : 新型コロナ感染拡大があり、公共交通を避けるようになり自家用車の出勤を認めた事業所がある。事業所内でグラウンドを駐車場として開放し、自家用車で通える体制を整えた事例もある。従業員から意外と便利という声があり、自家用車をやめられない状況にある。資料の 24 ページに混雑時速度の分析があるが、公共交通の利用頻度が減っていることも要因かと思う。経済界としては、企業への呼びかけもできるので、事業所に勤める方が公共交通を利用することによるメリットを考えていただければと思う。

渋滞関係で、前の議題の資料 21 ページで、牧野樟葉間でのスマートインターチェンジの設置を、北大阪商工会議所として国土交通省に要望活動をしている。ドラステックな話になるが、これを機に要望活動を含めてご検討いただきたい。

AI オンデマンドの実施は良い視点である。中小企業の社長と話をすることがあるが、高齢の方も多し。AI オンデマンドが普及していけば交通弱者への対策としては有効だが、高齢者になればなるほど、使い方が分からないという方が非常に多いという実感がある。草の根的な活動になるかもしれないが、高齢者に対して使い方の説明会など企画していくことが良いのではないかと。

事務局 : 公共交通は交通事業者だけ、行政だけで支えていくものという認識ではない。交通事業者の置かれている現状を踏まえると、市民も企業もみんなが支え合っていくものと考えているため、これを踏まえて計画の理念「ひと・企業・行政 みんながつながり支え合う交通で 未来のまちをつくる」を掲げている。今後、企業の通勤を公共交通へシフトしていく取組みで、行政として支援できることがあれば、具体的な施策として取り組んでいきたい。

新名神高速道路のスマートインターチェンジの件は、スマートインターチェンジの事業効果を含めて検証した中で、現時点においては本市の施策の中で優先順位を高めるまでには至りませんが、新名神高速道路の開通後、周辺環境の変化や地元の機運の高まりなどがあれば検討をしていく。

AI オンデマンドの導入に関して、まずは既存の公共交通を維持・確保していくことを

基本路線として考えている。昨今の社会情勢を鑑みると、いずれは路線バスの廃止や大幅減便となることも考えられるが、そのような場合に機動的に対応できるようにするために、調査研究を進めていく必要があると考えている。また、既存公共交通との競合が出てくる可能性があるため、慎重に議論しながら検討していきたい。

委員：「みんなで支え合う」という理念に、前計画の情報の共有化のエッセンスが入っていると理解している。現況の評価、施策や取組みに繋げていく際に、いまどのように情報を提供しているのか、誰にどういう風にどんな見え方であるということが重要で、より届きやすい、皆さんが繋がっていきやすいものにしていければ良いと思う。言葉遣いのお話となるが、基本方針2で「まちの賑わいと都市の活力を支える交通」、基本方針3で「都市の安全・安心を支える」、理念で「未来のまちをつくる」とあり、まちと都市が混在している。読んだ人が具体的に何を指しているのか、曖昧な理解となってしまう。今後の指針となるものなので、あまり振れないような言葉遣いにした方が良いのではないかと。

事務局：情報をどのように発信しているか、どのような問題点があるかというご質問について、現時点でその点の整理が出来ていないため、次回の協議会までに事務局で整理して改めて説明する。質問2つ目、基本方針と理念で「都市」と「まち」という表現が混在しているというご指摘について、確かに混在しており市民にとって分かりにくいものとなっている部分があるかと思う。事務局で再考し、会長と相談のうえ修正する。

会長：資料33ページの骨格体系図と、そこに至るページもそうで、交通の現状を捉えて課題を把握して基本方針をまとめていくということで、この次に具体的に施策内容が展開されると思う。これだけを見て次の計画をやるとなると、網羅的な計画が出てくる可能性がある。向こう10年間ということ考えると網羅的なものにせざるを得ないかもしれないが、中間評価の5年までにはこれを絶対やる、施策の優先順位を明確することが大事である。色々付け加えるよりは、ドライバー不足の話もそうだが、縮んでいく状況も結構あるので、市民の皆様にご合意をお願いする、全部はできないけれどもこれは少なくともやりますよということで、重点施策を明確に出していくことで、市民の方にご理解とご協力をいただかないと、何でもやりますよということでは絵に描いた計画にしかならない。これからの計画は、優先順位を付けて、枚方市としてはこれを大事にしていく、他のことは待ってくださいということを書いていかないと実現性が乏しくなる。次回協議会までに、そういう議論を展開できるようにすることに意識して、体系をまとめていくことをお願いしたい。色んなことが書いてあるが、結局誰が何をやるのか曖昧になる可能性がある。

副会長：前計画でも確認したと思うが、資料6ページの地域区分について伺う。立地適正化計画のその他の種別に当たるところに、香里園と橋本の他に北山地区が入っている。令和4年の立地適正化計画では北山地区が拠点となっているため、香里園のように都市拠点の○を付けないといけないのではないか。立地適正化計画と整合しているのか別の考え方なのかを確認したい。

事務局：都市拠点の赤い丸で示した箇所は、都市計画マスタープランで都市拠点として位置付けている箇所である。立地適正化計画の中で都市機能誘導区域を定めている箇所が北山地区にあり、それが都市拠点と都市機能誘導区域を定めている相違点となっている。北山地区は都市計画マスタープランの都市拠点としては定めていない。

会長：資料に都市計画マスタープランを出典としている旨、記載しておくことで明確に理解できるかと思う。

案件3：今後の予定について

〈総括〉

○以下のとおり確認した

- ・次回協議会を令和6年7月1日に開催予定とする。

〈質疑応答〉

事務局：今後の予定について説明。

委員：ペロブスカイト太陽光発電という発電システムがある。中小企業でGXに対応できる手段がない、何をすれば良いかわからない状況があるが、ペロブスカイト太陽光発電を使えば、重さが10分の1となるので、既存の太陽光パネルを載せられなかった工場の屋根に乗せて発電ができるようになる。全国的なGX施策としてやっていけないかということをおもっている。交通計画の中でも持続可能というキーワードがあった。例えば、荷重制限等で既存の太陽光パネルが付けられない道路関係の設備に導入して、市のGX施策に活用できるのではないかと考えている。ペロブスカイト太陽光発電の今一番開発が進んでいる企業が積水化学で、それを研究しているのが島本町水無瀬研究所である。また京大や久御山町のエネフオートテクノロジーなど、このエリア周辺でも研究開発に取り組まれている。交通関係のGXにも生かしていただければと思う。

会長：先ほど、迫間委員からお話のあった工場の通勤のことに関連して、私も内陸工業都市で

関わりがあり、若い人が免許を持たなくなったとか、海外の方に働いてもらうことを考えると、企業の送迎バスを出すことや、路線バスの時刻を業務時間に合わせることで企業にとっては人材確保になる。さらに、移動困難にある人たちや障害者の雇用にもつながっていく。一旦コロナで自家用車に振れている状況もあると思うが、自動車から公共交通への転換が可能な交通を想定し、みんなで公共交通を支えていくことで便数も増えていく効果も想定されるので、今後取組みの1つとして、ご承知いただけたらと思う。

会長 : 会議は以上とさせていただく。活発なご発言をありがたく思う。計画の内容に反映するもの、次回協議会までの課題とするものを事務局で仕分けをし、骨子の取りまとめを進めていただければと思う。

事務局 : 会議録は事務局で案を作成し各委員の皆様に共有する。会長に確認のうえ、ホームページへの公表を予定している。

以上